

所属高等学校	加治木高等学校
教 科・氏 名	国語・宮内 裕平

1 視察した高校名とその概要

○広島大学付属福山中・高等学校

全国に先駆けて（1962年から）中・高6ヶ年一貫教育に取り組んだ普通科6クラスの進学校。福山を中心とする地域のみならず、全国的にもトップレベルの教育を実践する学校で2019年度入試では東京大学12名、京都大学12名、大阪大学15名など難関大に多くの合格者を輩出している。自主性を重んじチャイムやベルが鳴らない。また、広島大学のほとんどすべての学部の教育実習を担当している。

○広島県立尾道北高等学校

総合学科5・6クラスの進学校。進路に応じて適切な科目選択ができるよう、自由選択科目等がある。全普通教室にプロジェクターが設置されており、WiFiでプロジェクター接続やネット接続できるため、積極的にICTを利用した授業実践がなされている。1年3月に「東大ツアー」、2年11月に「難関大合宿」など独自の行事も行っている。

2 視察時期

○令和元年9月17日（火）…広島大学付属福山中・高等学校

○令和元年9月18日（水）…広島県立尾道北高等学校

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて参考になった点（箇条書きで可）

○広島大学付属福山中・高等学校

『夢十夜』第一夜の授業を参観

- ・目新しい手法を取り入れるのではなく、徹底的に発問と応答によって授業がくみだてられていた。
- ・授業者は、生徒の応答に対して、正解・不正解等の反応を示すことなく、次の思考を促すような発問で授業を進めていた。
- ・予習は特に課しておらず、その場で一緒に読み進めるというスタイルであった。

○広島県立尾道北高等学校

創作した「短歌」の鑑賞の授業を参観

- ・生徒が創作した短歌の優れたものを各学級からピックアップし、グループで鑑賞文を書くという授業であった。
- ・ICT環境が整っているため、iPadを用いてweb画面を投影していた。
- ・生徒が発表する際も、原稿を書画カメラで投影していた。

4 A Lの視点からの授業改善に向けて授業に取り入れたいことなど（箇条書きで可）

「主体的・対話的で深い学び」といっても形態は様々であるということを再認識した。生徒の現状や学びの環境に適した、生徒にとって新たな発見や気づきにつながる活動を模索したい。

非常に対照的な先進校

・目新しい手法や、機材等はいわず徹底的に発問を繰り返すことで、思考のアクティブ化を目指すという方向性で授業を行っていた。最後まで正解を示すことなく、授業の終わりも発問を投げかけて終わるという徹底的に考えさせるという授業

・いわゆるA L 全教室にプロジェクターが天井に備え付けてあり、黒板はホワイトボードでいつでも投影できるというハード面が非常に整っている学校。i P a dや書画カメラを用いたグループ活動を行っている授業を参観。

今回の視察を通して、学校の実態に合っていることとバランスが大切 再認識 従来型の授業の良さも必ずあると思うので、組み合わせを工夫したい。